

1. **御挨拶** 本年度も情報の共有化を目的にして、財団ニュースを発行したいと思います。記事は、その趣旨に則って、財団各委員会はもとより、広く集めたいと思います。
2. **財団研究会開催** 7月9日、筑西ダイヤモンドホールに於いて、各クラブの財団委員長、ガバナー補佐の御参加を頂き、財団100周年に当たり、第1ゾーン担当ARRFC（ロータリー地域財団コーディネーター）の笹氣 光祚氏をお招きし、100年の歴史と現状について、御講演を頂きました。当地区は、「寄付ゼロのクラブ」が零と言う輝かしい実績を継続されて居り、是非年度も継続する事をお願い申し上げます。
3. **ポールハリス・ソサエティー** 今年度は、早くも2名の方々が加入されました。大高 司郎氏（高萩RC）及び野間 満氏（筑西きぬRC）です。これで当地区におけるPHS会員は、合計45名です。引き続き御理解と御協力をお願い申し上げます。
4. **倉沢年度地区補助金の清算** 昨年度の地区補助金個別プロジェクト報告書については、各クラブより既に御提出して頂いて居りますが、それに基づきTRFに対して最終報告書を提出致しました。審査終了後に、本年度各クラブから御提案頂きました、白戸年度の地区補助金が出金に成ります。今年度も報告書の提出、清算業務など引き続き御協力をお願い致します。
5. **茨城大学水戸キャンパス訪問の件** 7月20日国際奉仕委員長 瀬戸 隆海氏、水戸西RC 林会長 内田幹事と共に訪問致しました。インドネシアにおけるイチゴ栽培をグローバル・グラントのVTTを活用した取り組みが、昨年来進められて居て、今回は、ジェンデラル・スディルマン大学から、Drs. Sigit Wibowo DN（副学長）、Dr.Ir.Anisur Rosyad MS（農学部長）及びDr. Condoro Wibowo MSc がお見えに成り、茨城大学からは、主催をされている、農学部の佐藤達雄助教、坂上伸生助教及び森 聖治学長 特別補佐が出席された。今回は夫々の組織を含めた自己紹介が主であった。今後佐藤達雄助教が、取り組み方の具体的内容を取り纏めて頂き、インドネシア側ロータリークラブを交えて、進めて行く事に成る。
6. **グローバル・グラントの取り組み** 現在、本年度の申請は、文書による提案レベルで、D.3350より十数年前に、当地区から寄贈した Braille embosser for the educational purpose という、浮き出し点字用タイプライターの更新申請が来ている。上記以外にもD.3350より、提案がある様である。内容を要約した、文書レベルで提案して頂くようお願いしている。
グローバル・グラントの取り扱いについては、対TRFに対して、全面的に財団委員会が責任を持つが、その用途については、国際奉仕委員会の参加を得て、決めてゆく為である。
7. **ポリオの撲滅状況** 2016年7月28日発行 RI 日本事務局財団室ニュースを参照して下さい。

以上